

産禅洞だより

■ 岐阜環境医学研究所・産禅洞診療所
 ● 呼吸器疾患・禁煙治療・漢方相談
 診察日：月曜・木曜・金曜
 受付時間：9:00~12:00
 〒502-0017 岐阜市長良雄穂878-16
 IP Tel:058-296-9545
 FAX:058-296-3903
 E-mail:zazendoh@ccn.aitai.ne.jp
 http://zazendoh.town-web.net/
第135号 2015.6.
 毎月1回発行 産禅洞診療所 松井英介



if もしも

松井英介



最近出版された二冊の本を紹介します。

一冊は、「もしも、詩があったら」(光文社新書)。

USAからやってきた詩人アサー・ピナードの新しい本です。彼は日本にやってきてまだ四半世紀ですが、言葉とくに日本語の魔術師です。多くの若者にも人気があります。

彼とは、渋谷にあるこだわり豆腐店の大桃さんたちがやっている集いで、3.11後初めて会い、親しくなりました。高校時代から詩を書き始めた彼の心は時空を超え、さまざまな詩の世界に私たちを誘ってくれます。私たちの心の眼を開いてくれるのです。

この本のキーワードは、if「もしも」。「『もしも』と言っただけで、まわりの世界が、ちょっと違って見える。(中略)『もしものとき』にそなえて、ぼくらは生きのびようとする」(オビの言葉)。「もしも」は、3.11大惨事をイメージさせます。

彼のメッセージは、明快です。例えば、「アイゼンハワー政権ががらりとPRの方向を変え、『もしも原爆のエネルギーを発電のためにつかったら、みなさんの電気代はゆくゆくゼロになること請け合いだ!』と言いつらし、平和利用の夢物語をでっちあげた。当然ながら、最初から軍事利用の隠れ蓑に過ぎなかったが。(P.15)」。

もう一冊は、「チェルノブイリの犯罪―核の収容所」(緑風出版)。以前にご紹介したドキュメンタリーDVD「真実はどこに」や「サクリファイス」を作ったイタリアの作家 W. チェルトコフの本です。つい最近日本語訳(上)が出ました。(下)は秋に予定。

じつに丹念な現場取材を元に、チェルノブイリの今を生き活きと映し出しています。原著は2006年に出版されましたが、著者は日本語訳のために、その後明らかになった事実を大幅に加筆したそうです。その意味では、2015年版と言えるのではないのでしょうか。

「チェルノブイリ関連の本は数百冊あるが、この本は書棚のトップに位置する」と、アメリカ芸術科学アカデミー名誉会員でもあるロシアの生物学者 A. ヤプロコフは、この本を推奨しています。また、次のようにも書いています。「(原子力の平和利用)がもたらす制御不能の影響―つまり電離放射線の日常的な低線量被ばくによる人為的放射線核種の健康への影響―を深く理解し、それを最小限に食い止めようと努めている人々にとって、この本は、精神的な大きな支えになるのだ」(P.18~9)。

アサー流に言えば「もしも、この本を読まなかったら・・・」。詳しくは次号で。